

人間工学

選 択

開講年次：2年次前期

科目区分：講 義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：保健・医療・福祉分野、看護援助における機械・器具、空間と人間との好ましい対応関係など、安全性・快適性・効率性を考慮した人間工学の基礎的な概念を理解する。

- 到達目標**：①人間工学の基礎的な概念と看護学との関係を理解する。
②人の動作に必要な機能の特性を理解する。
③人の生体計測および動作分析方法の基礎を学ぶ。
④看護ケア・医療福祉機器、病院環境の諸課題を人間工学の視点から説明する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎樋之津 淳子・檜山 明子・佐藤 秀一

■**授業計画・内容**：

- 第1回 看護における人間工学とは（樋之津）
第2回 看護における安全と人間工学（檜山）
第3回 身体の運動機能・生体計測・動作分析法（佐藤）
第4回 福祉工学・リハビリ工学（佐藤）
第5回 療養環境と人間工学（檜山・樋之津）
第6回 看護ケア・医療福祉機器と人間工学①（檜山・樋之津）
第7回 看護ケア・医療福祉機器と人間工学②（檜山・樋之津）
第8回 まとめ（樋之津）

■**教科書**：指定しない

- 参考文献**：大河原千鶴子、酒井一博編（2002）. ヘルス・ケア・ワークを支える 看護の人間工学. 医歯薬出版.
小川鑛一（1999）. 看護動作を助ける基礎人間工学、東京電機大学出版局.
野呂影勇（1990）. 図説エルゴノミクス、培風館.

■**成績評価基準と方法**：（2/3以上の出席をもって下記のように評価する）

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③	④		
レポート	○	◎	◎	◎	計測方法、結果と考察が客観的に記述できる	100
出席					2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：楽しみながら学習できると学生からの評価が高い授業です。人間工学は、一見難しそうに見えますが、事前に特別な工学の知識は必要ありません、授業を通して学んで下さい。レーザー距離計などの様々な器具を使いながら、実際にからだやモノを測り、看護ケア・医療福祉機器、病院環境における動作分析をします。基礎看護技術論や観察技術論で既に学んだ看護技術も、人間工学を学ぶと違う角度から見えるようになるはずです。